



故正四位勳二等石井省一郎叙勳ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク
昭和五年十月二十九日

内閣總理大臣濱口雄幸



内閣



賞勳局 一九一七年

昭和五年十月十六日 内閣書記官長 〇

内閣書記官

昭和五年十月二十九日裁可

昭和五年十月二十九日裁可

内閣總理大臣 准

賞勳局總裁



故正四位勲二等石井省一郎儀ハ小倉藩ニ生レ他藩應接掛トシテ慶應三年ヨリ京師ニ在リ明治元年討幕ノ大命下ルヤ朝命ヲ奉シテ小倉藩ヲシテ討幕ノ軍ニ加ハラシメント穴切カニ太政要路ニ其ノ意ヲ内陳ス幾モナクシテ小倉藩ニ一中隊出兵ノ命下

賞勳局

リタルヲ以テ歸藩同志ヲ會シ出兵ノ議ヲ定ム俗論紛起七晝夜ヲ費シテ漸ク兵ヲ出スコトヲ得タリ同二年職ヲ官ニ奉シ累進シテ熊本縣令心得、内務省土木局長、内務大書記官、岩手縣令、同知事、茨城縣知事ニ歷任シ同二十九年錦鷄間祗候仰付ラレ同三十年貴族院議員ニ任セラレ以テ今日ニ至ル其ノ間克ク職務ニ精勵シ就中初代ノ土木局長ト

シテ土木行政ノ根本方針ヲ樹テ全
國ノ道路ヲ國道縣道里道ノ三種ニ大
別シテ管理スルコトヲ内務卿ニ建議
シ明治九年之カ公布ヲ見ルニ至ル
又澗川利根川信濃川木曾川北赤川庄川
阿隈川及富士川ノ測量又ハ改修ニ
着手シ全國諸大川改修ハ其ノ計画
ヲ基礎トシテ起エセラレタルモノ多シ
其ノ他横濱灣ニ棧橋埠頭ヲ築造シ
タル等功績顯著ノ者ニ候處本月
二十日死去セル趣ニ付此際特ニ同日
附ヲ以テ勲一等ニ叙シ瑞寶章ヲ授
ケラレ度此段允裁ヲ仰ク

内

閣

めくれば

「秘」内務省書秘第四七號

内務省書秘第四七號

魚等遊蚊ノ件

故 正四位勳二等 石井省一郎

右ハ年少ニシテ維新國家多事ノ際ニ會シ輔躬王事ニ奔走スル所アリ
明治十年西南ノ役ニ際シ戰亂ノ巷ニ於テ物情ノ穩否ヲ觀察スヘク時
ノ大久保内務卿ノ命ヲ受テ各所ヲ巡回シテ其ノ形勢ヲ報告シ或ハ舊
友ニ面晤シテ時勢ニ就テ陳述スル所アリ或ハ身ヲ挺シテ地民ノ鎮撫
ニ努ムル等功勞夥カラズ明治二年以來職ヲ官ニ奉シ累進シテ熊本縣
令心得、内務省土木局長、内務大書記官、岩手縣令、同知事茨城縣
知事ニ歷任ス其ノ間實ニ二十餘年國務ニ盡瘁ス殊ニ初代ノ土木局長

内務省

トシテ土木行政ノ根本方針ヲ樹テ道路ヲ改修シ橋梁ヲ架設シ以テ交
通ノ便ヲ圖リ明治八年全國ノ道路ヲ國道、縣道、及町村道ノ三種ニ
區別スルノ制ヲ定メ又全國ヲ數區ニ分チテ土木出張所ヲ置キテ中央
政府所屬ノ道路河川港灣ノ事務ヲ司ラシメ尙野蒜港ヲ修築シ北上川
ヲ改修シ又岩手縣知事ノ任ニアルヤ陸中村後ヲ貫通スル道路及陸前
羽前ヲ貫通スル道路改修及陸羽ヲ貫通スル平和街道ヲ修治シテ管下
國道五十里ヲ開ク其ノ他或ハ盛岡市ノ市區ヲ改正シ街路溝渠ヲ改良
シ或ハ運河ヲ開鑿シ尙教育産業ノ改善ニ意ヲ用キ町學校ノ新築農事
講習所ノ創設三府二十一聯合勸業博覽會ヲ開催勸業諮問會ノ設置蠶
絲検査ノ開始桑苗ノ増殖養成等多大ノ事績ヲ舉ケタリ明治二十九年



錦鷲間祇候ニ任セラレ同三十年貴族院議員ニ勅選セラレテ今日ニ至ル以上ノ如ク土木産業其他國事ニ盡力シタル功績洵ニ顯著ナルモノト被認候處同人儀本月廿日死亡候ニ付テハ此際相當勲等昇叙ノ御詮議相成候致度

昭和五年十月廿四日

内務大臣 安達 謙 藏



内閣總理大臣 濱口 雄 幸 殿

内務省



官秘第二二二號

昭和五年十月二十一日

岩手縣知事

内務大臣官房文書課長殿

事績調査ノ件

電報ヲ以テ御照會相成候元本縣知事石
中省一郎ノ事績別紙ノ通ニ有之候ニ付御了
承相成度履歷書二通相送ヘ及回答候

岩手縣

(秘)

事績調書

石井省一郎、本縣ニ在職セルハ明治十七年
二月ヨリ明治二十四年四月ニ至ル七年三月間ニ
シテ此ノ間能ク管内ヲ巡視シ親シク地勢民
情ヲ察シ適切ナル各般ノ施設ヲ爲シ以テ本
縣文化ノ開發民力ノ充實ニ資セル所甚ダ多
シ就中土木工事ノ施行、教育及産業ノ改善
發達ニ貢獻セルハ其ノ顯著ナルモノトス

當時本縣管内道路ノ改修セラル、モ、少ク交通
不便ナルニ鑑ミ土木工事ノ根本方針ヲ確立シ
要ナル國縣道路路線ノ改修工事ヲ計畫セルガ
先ヅ明治十八年三月縣會ニ諮リ本縣中央
部ノ南北ニ貫通スル國道ノ全線ニ亘リ路線ノ
變更勻配ノ緩和ヲ目的トシ大工事ヲ施行

岩手縣

シ其ノ他隣縣秋田縣及本縣東海岸方面
ニ通ズル黒沢尻横手線一閑釜仙沼線、盛
岡釜石線盛岡宮古線等縣道ノ改修ニ
着手シ其ノ工事ヲ施行シタル外盛岡驛ヨリ
盛岡市街地ニ通ズル川運橋ヲ北上川ニ架
シ又和賀川ニ九年橋、馬淵川ニ青岩橋ヲ
架セル等庶民交通ノ便ヲ圖リ延テ地方産
業ノ開發ニ資シタリ
盛岡中學校ノ前身タル岩手中學校ハ明治
十三年ノ創立ニシテ當時岩手尋常師範
學校内ニ假校舍ヲ設ケ授業ヲ開始シ來リ
シガ同氏ハ校舍ノ新築ヲ計畫シ新敷地ヲ
買収シテ明治十八年七月盛岡市内丸ニ完備
セル一大校舍ヲ新築シ又同校ニ豫備科ヲ

設置レ尚若手師範學校ニ對シ其ノ設備ヲ
 整ヘ内容ヲ改善シ以テ普通教育ノ普及及奨
 勵ニ努メタリ又明治二十一年四月盛岡市内ニ若手
 縣立盛岡農學校ノ前身ナル農事講習所
 ヲ創設生徒三十名ヲ募集シ本縣實業教育
 ノ端ヲ開クト共ニ改良農具ノ普及牛馬耕
 傳習等ヲ爲サレメ縣下農事ノ面目ヲ一新
 スルニ至レリ 産業ノ改良奔達ニ付 諸種ノ施
 設ヲ爲シタルガ中ニモ同氏著任後三府三縣縣
 合勸業博覽會ヲ盛岡市ニ開催シ其ノ出品
 莫數二万五千六百七十一矣 出品人員一千四百四
 人 來觀者客員ニ五萬三千七百餘人 多キニ遠
 レタルアリ 尚本縣勸業方針ヲ確立スル爲勸
 業諮同會ヲ設置レ或ハ當業者ノ希望ヲ

岩手縣

細レ 蠶種ノ検査ヲ開始シ或ハ各郡市ニ桑苗
 圃ハ段歩宛ヲ設ケ其ノ養成ニ盡カスル等縣
 下産業ノ開闢ニ多大ノ成績アリタリ

書秘 四七 號

五年十月二十七日

潮内務次官



下條賞勳局總裁殿

功績書追申ノ件

左記ノ者ニ對スル標記ノ件申牒ノ處
別紙追申候間可然御取計相煩度
記

内務省

石井省一郎

道路ニ付テハ明治三年土木權正就任以來多年研究ノ結果全國ノ道路ヲ國道縣道里道（現今ノ市町村道）ノ三種ニ大別シテ管理スルノ大方針ヲ樹テ明治八年之ヲ内務卿ニ建議セリ此案ハ明治八年六月ノ地方官會議ニ諮問セラレ翌九年大政官達第六十號ヲ以テ公布セララルハ我國道路行政ノ根本法トナリ大正九年道路法ノ制定ニ至ルマテ四十五ケ年間實行セラレ道路ノ修築ニ資スル所多大ナリシハ勿論新道路法モ亦此基礎ノ上ニ制定セララル

河川ニ付テハ明治六年ヨリ澁川ノ改修設計ニ着手シ同八年五月改修計畫ノ方針ヲ確定シテ伏見觀月橋以下大阪天橋橋ニ至ル約十一里ヲ

内務省

改修區域トシテ工事ニ着手シ明治七年三月目論見書ヲ具シテ利根川改修ノ儀ヲ木戸内務卿ニ建議シ明治八年一月三條太政大臣ノ認許ヲ得テ江戸川通水並低水工事ニ着手シ又明治九年信濃川明治十一年木曾川明治十三年北上川同十四年庄川阿武隈川及富士川ノ測量又ハ改修ニ着手セリ全國ノ諸大川ノ改修ハ石井氏ノ在職中ノ計畫ヲ基礎トシテ起工セラレタルモノ多ク明治六七年ヨリ十四五年ニ至ル期間即チ石井土木權頭在職中ノ計畫ハ我國河川改修ノ第一歩ニシテ最重要ナルヲ見ル

港灣ニ付テハ明治七年横濱灣ノ東南側ニ繫船埠頭ヲ兼ネタル防波堤ヲ畫シ其庇蔽裡ニ棧橋ヲ設ケ同八年更ニ東波止場ノ附近ヨリ沖ニ向

ヒ延長約五千尺ノ埠頭ヲ築造シ大船ノ繫泊ニ便セリ又
東北地方ニ於ケル産業振興ノ一助トシテ明治十年二月鴨瀬川ノ河口
野蒜ニ築港ノ計畫ヲ樹テ北上川トノ間ニ北上運河ヲ開鑿シ運輸ノ便
ヲ開キ明治十一年越前三國町ニ接シ坂井港ヲ修築セリ野蒜坂井ノ二
港ハ我國築港史上ニ於テ先驅ヲナセリ

内務省

秘

内務省書秘第四七號ノ内

昭和五年十月廿七日

内務次官



賞勳局總裁殿

功績調書送付ノ件

別紙石井省一郎標記ノ件及送付候條御查收相成度

内務省

裏面白紙

岩手縣盛岡市上米小路十七番戸

岩手縣士族

正四位勳二等 石井省一郎

天保十二年^辛十二月廿八日豊前國企救郡片野新町村ニ生ル舊小倉藩士族

慶應二年^丙 他藩應接掛ヲ命セラル

舊小倉藩^藩文化年間國論甲乙二派ニ分レ激烈ナル歴練ヲ生シ甲派ノ志士凡八十名餘藩ヲ去リ肥後ニ至リ細川^侯ニ訴フル處アラントシ現前國黒崎驛ニ至ル乙派事ヲ以テ之ヲ抑留シ遂ニ羅織スル處トナリ志士十八人ヲ殺シ其餘悉ク罰ニ遭ヒ政柄遂ニ乙派ノ執ル處トナル是ニ於テカ専ラ志士ヲ抑壓シ士風軟弱志氣消沈又振ハス用之他國ニ遊學シ他國人ニ交ルコトヲ一切禁ス依之自然識見ニ乏ク時勢ヲ知ラス幕命唯奉スルヲ以テ唯一ノ國是トスルモノノ如シ元治甲子外國艦隊ノ

東 京 府

馬關ニ寇スルヤ奮慨ノ士アリト雖モ亦如何トモスル能ハス幕府長州再征ノ擧アルニ當テ京師及各地ヲ奔走シ藩ニ歸リ屢大義名分ヨリ天下ノ大勢ヲ説キ同志ト共ニ專ラ長ト連和センコトヲ務ム長豊兵結ンテ解ケサルニ及ヒテ薩藩大山格之助(當時七卿護衛ノ爲大宰府ニアリ)ト謀リ馬關ニ至リ前原彦太郎(當時原信介ト變名ス)國貞直人等ニ會見シ和議ヲ講ス後遂ニ和議成ル

慶應三年^{丁卯}

幕府大ニ諸候ヲ京師ニ會シ大政返上將軍職辭退ノ議ヲ定ム藩主忠忱猶幼ナリ一門小笠原内匠ヲ名代トシテ京師ニ至ラシム省一郎之ニ隨ヒ内外ノ事ニ干與ス國家向背ノ分ルル處任特ニ重シ此時ニ當リ徳川慶喜二條城ヲ退テ大政城ニ據ル尾越兩侯下坂徳川氏ノ封土ヲ定メ日慶喜輕裝上京スヘキ旨勅命ヲ齎ラセリ尾越兩侯ノ歸京スルヤ明治元年^{戊辰}一月會桑二藩大兵ヲ率ヒテ徳川氏ノ先洪ト稱シ京ニ入ラントス官兵邀テ之ヲ伏見ニ擊破ス尋テ討幕ノ詔アリ省一郎猶京師ニ在リ思

(三、九石井納)

ラク小笠原家ハ世々徳川家譜第ノ諸侯タリ曾テ幕旨ヲ承テ長藩ト事
ヲ構フル數年曾桑二藩ト同視セラル去歲穢ニ和スト雖モ藩情概ネ佐
幕ニ傾キ且天下ノ大勢ニ首シ向背未タ計ルヘカラス此時ニ當リ一藩
ノ方向ヲ定ムルハ藩兵ヲシテ討幕ノ兵ニ加ランメ以テ實効ヲ擧ケ朝
意ヲ安ンスルニ如クハナカルヘシト竊ニ請ヒ出兵ノ命ヲ得タリ是ニ
於テカ程ヲ兼ネ藩ニ歸リ直ニ小笠原甲斐（一門家老ニテ同志）ノ邸
ニ至リ告クルニ實ヲ以テシ竊ニ同志ヲ會シ出兵ノ議ヲ定ム俗論采シ
テ紛起ス百方奔走七晝夜ヲ費ヤシ漸ク兵ヲ出スコトヲ得タリ（此隊
平井小左衛門之ヲ率ヒ上京ノ後肥前ノ兵ト共ニ九條殿ヲ護シ舟路
仙臺ニ至ル上陸ヲ得ス去ツテ盛岡ニ至ル盛岡藩亦方向定マラス遂ニ
秋田藩ニ入り薩長ノ兵ト合シ數庄内及仙臺ノ兵ト戰ヒ功アリ）此機
ニ乘シテ大ニ俗論黨ヲ掃蕩シ藩政ヲ改革シ兵制ヲ改革センコトヲ期
シ小笠原甲斐保高直衛牧野彌次右衛門（後建野郷三ト改ム）小澤武
雄吉澤直行等ノ同志ト謀リ青年有爲ノ同志二中隊ヲ編シ兵器ヲ授ケ

東京府

藩廳附近ノ寺院ニ屯セシメ以テ反對黨ニ備ヘ改革ヲ斷行シ大勢全ク
定マルコトヲ得タリ後佐幕黨ノ首領小宮民部藩命ヲ以テ割腹セリ

明治二年己巳四月

事ヲ以テ上京ス五月民部官出仕ヲ命セラル（民部官）以下官歴左ノ
如シ

同 七月

御用有之至急伊奈縣へ罷越可申候事（民部官）

是ヨリ先信濃國贖金ニ關スル一揆暴發セリ民部官副知事廣澤兵助ノ
旨ヲ承ケテ出張縣知事協議同國各藩重役ヲ會シ贖金ニ關スル處分方
針ヲ懇示ス猶本省ヨリ左ノ通り達シアリ

贖金ノ議ニ付別紙ノ通御布告文（別紙布告文略之）相成候間相
廻シ候右ノ御趣意ヲ以テ出張充鎮撫方精々盡力可有之候最モ伊
奈縣へモ相達候間此段爲心得申添候也

（三、五石井納）

七月二十八日 民部省

幾モナクシテ鎮定ス

明治三年 庚午二月

濱田縣騷擾一件ニ付同縣出張申付候事（民部省）

達シ

今般濱田縣騷擾一件ニ付同縣へ出張申付候間萬端縣官申談鎮撫方行届候様盡力可有之尤右之趣濱田縣へモ相達シ置キ候條可得其意候事

午二月 民部省

是ヨリ先キ山口藩ノ浪士某暴氏ヲ煽動シ倉庫ヲ奪ヒ爲ス所アラントス人民大ニ騷擾ノ報アリ是レ同地出張ノ命ヲ拜スル故ナリ依テ程ヲ兼テ至ル至レハ則事已ニ定マル隅長州脱隊ノ舉アリ敗兵凡一大隊餘濱田ニ遁レ來ル同地ハ曾テ長兵ノ占領ニ係リ砲器彈藥猶倉庫ニ貯藏スルモノアルヲ以テ其意蓋シ之ヲ奪ヒ再舉ヲ謀ルモノノ如シ依之縣

東京府

知事眞木某ト協力其隊長ニ會見シ諭スミ順逆ヲ以テシ遂ニ盡ク捕ヘテ之ヲ長藩ニ致シ事平クヲ得タリ

明治三年十一月 任土木權正（太政官）

同 敍從七位（*）

同 大阪出張相達シ候事（民部省）

同 四年 辛未 八月廿二日 任土木權助（太政官）

同 五年 壬申 十一月五日 免本官大藏省七等出仕被仰付（太政官）

同 足柄縣、神奈川縣、人間縣、埼玉縣、木更津縣、印旛縣、新治縣、

茨城縣、栃木縣、宇都宮縣

是ヨリ先キ藩ヲ廢シ新ニ縣ヲ置キ暗ニ藩士ノ不平ヲ抱クモノ少シト

セス物情詢々事務錯雜セリ依テ大藏大輔井上馨ノ旨ヲ承ケテ縣知事

協議藩縣財務授受ヲ進歩シ測ラ物情ノ隱否ヲ視察シ大ニ得ル所アリ

同 九月四日 任土木助（太政官）

（三、九石井稿）

明治五年十月 被從六位 (太政官)

同 十一月 信濃川分水路爲檢分出張申達候事 (大藏省)

同 六年 癸酉 二月 大阪出張相達候事 (大藏省)

同 九月 大阪出張相達候事 ()

同 十月十八日 島根濱田兩縣水難場爲見分出張相達候事 ()

同 七年 甲戌 二月二日 任土本權頭 (太政官)

同 六月十四日 被正六位 ()

同 九月廿二日 長崎白河三藩三縣出張被仰付候事 (内務省)

同 八年 乙亥 五月十三日 地方官會議ニ付當省所屬之事務取調御用掛被仰付候事 (内務省)

是レヨリ先キ大久保木戸伊藤井上板垣後藤等大政會議ノ結果島津久光板垣退助ノ入閣大審院元老院ノ創設地方官會議ノ開會ノ事ヲ決セラル省一郎等大久保内務卿木戸頼岡 (地方官會議議長) ノ旨ヲ承ケテ取調ニ從事シ且開會中答辯ノ任ニ當ル

東京府

同 八年八月九日 新川縣大阪府出張被仰付候事 (内務省)

同 十月卅一日 御用有之西國筋出張被仰付 (太政官)

同 十一月二日 今般符旨ヲ以テ各地方へ被差遣候ニ付テハ左ノ件々可相心得事

一、此程左大臣島津久光參議板垣退助各自意見上奏之處戊辰以來百度維新國家富強ノ基ヲ立ントシ漸次其緒ニ就ク況ヤ目下内外多事ニ際シ是宜ク諸官協同シテ共ニ成功ヲ圖ルヘキ時ニシテ一二ノ意見ニ因リ容易ニ紛更スヘカラサルヲ以テ右に上奏御採用ナラサル旨

聖斷仰出サル然ル處兩人共辭表差出候ニ付其通被聞召候事

一、先頃朝鮮國ニ於テ我雲揚艦ニ恭發砲擊セシ等ノ事ニ付テハ多少浮説モ有之趣ノ處我國政誰新隣好保續ノ照會ニ對シ答文遷延ス

(三、九石井納)

ルニ付従前委曲ノ順序ニ從ヒ彼我交際ノ條理ヲ逐ヒ至當御處置之
アルヘキ事

一、内外ノ事情ニ就キ紛議自然道路ニ傳播シ人民或ハ方向ニ惑フ等ノ
事アルニ於テハ以テノ外ノ儀ニ付政府撫民ノ御趣意各管下貫徹セ
シメ候様注意可致事

一、凡テ管下之情勢報告書信ハ大臣ノ名ヲ宛テ差出ヘキ事

太政大臣 三 條 實 美

明治九年 丙子 七月廿九日 北海道巡視隨行被仰付候事（太政官）

但出張中内務權大丞心得ノ事

同 十年 丁丑 一月十一日 土木寮被廢土木局被置

同 任内務權大書記官（太政官）

同 土木局長申付候事（内務省）

同 二月三日 大阪府出張申付候事（ ）

同 二月廿二日 西國筋出張申付候事（ ）

東京府

明治十年二月七日省一郎ハ本務ヲ以テ阪地ニ出張セリ同廿一日西京
大久保内務卿ノ旅館ニ於テ西國筋出張ヲ命セラレ即時發程ス

但薩賊肥後ニ侵入シ川尻ニ於テ戦端ヲ開クノ報アルヲ以テ山口福

岡大分三縣士民ノ向背物情ノ穩否ヲ視察スヘキノ旨アリ

同廿三日馬關ニ着ス

同廿四日山口縣令旨ヲ承ケ馬關ニ來會ス同日馬關ヲ發シ小倉ニ着ス

小倉ハ省一郎ノ舊郷ナルヲ以テ舊友ニ面晤シ時勢ニ就テ陳スル所アリ

リ同廿五日午後小倉ヲ發程ス同廿六日午前福岡ニ着直ニ縣廳ニ入り

渡邊縣令ニ面晤ス同廿七日福岡總督本部ニ至リ山縣參軍ニ謁シ議ス

ル所アリ狀ヲ内務卿ニ報シ旨ヲ乞テ即日肥後國南ノ關ニ發行ス同廿

八日午前南關ニ着熊本縣屬官及區戶長ヲ會シ陳スル所アリ

三月一日熊本縣假廳ヲ南關ニ開キ一切ノ縣務ヲ理シ地民ヲ鎮撫シ且

旁ラ各旅團ニ力ヲ協ス

但先是熊本縣御舟假廳土寇ニ襲ハル福岡權令ハ城ニ入り屬官ハ一

(三、九石井稿)

時解散スル故ヲ以テ百一郎一時縣務ヲ理ス

同七日熊本縣權令富岡敬明籠城中權令ノ心得ヲ以テ事務取扱フヘキ旨ヲ太政官ヨリ奉命ス同十一日南關ヲ發シ高瀬木ノ葉二侯等ノ各地ヲ巡視シ延テ同廿一日ニ至ル同廿二日南關假廳ニ歸リ總督宮ヲ迎ヘ謁ス同廿三日南關ヲ發シ山鹿ニ着シ該地方ヲ巡回シ戰後ノ民ヲ撫ス延テ同廿六日ニ至ル同廿七日七本木ノ葉等ノ諸營ヲ訪テ岩崎原假廳ニ歸ル此日福岡ノ賊蜂起スルノ報アリ

但廿五日ヲ以テ南關假廳ヲ岩崎原ニ移ス

四月三日旨ヲ參軍ニ乞テ高瀬ヲ發シ大分縣ニ赴ク

但一日^夜參軍本營ニ於テ面議中津ノ賊暴舉シ大分支廳ヲ襲フノ報福岡縣廳ヨリ到達ス然レトモ賊情未タ審ナラス而シテ中津ハ百一郎ノ^舊郷ニ歸シ略其土俗ヲ諳スルヲ以テ賊情ヲ得シカ爲ニ一時出張ノ旨ヲ乞ヘリ

同四日午前日田ニ着ス同六日日田ヲ發シ木葉參事本營ニ至リ報スル

東京府

所アリ

但時ニ中津ノ賊大分縣廳ヲ襲ヒ勝タス路ヲ轉シテ肥後國小國ニ出テ終ニ二重峠ノ賊ニ投スルノ報ヲ得且參軍ノ旨ヲ以テノ故ナリ

同七日高瀬ニ歸リ縣務ヲ理ス延テ同十五日ニ至ル此夜川尻口ノ官軍熊本城ニ聯絡シ木留權木ノ賊潰散ノ報アリ同十六日早天高瀬ヲ發シ諸軍ト共ニ熊本城ニ入ル富岡權令ニ面晤シ是迄取扱ヒタル事務ヲ引繼キ以テ旨ヲ太政大臣及内務卿ニ上申ス同十七日熊本縣權令心得免セラル同十九日富岡權令協議八代ニ出張シ兵後ノ民ヲ鎮撫スル等ノ事ニ處シ且熊本八代ノ間ヲ奔走及八代地方ヲ巡回シ撫育等ニ從事ス延テ五月十九日ニ至ル五月二十日熊本ヲ發シ大分ニ赴ク同廿三日大分縣廳ニ着ス權令協議臨機非常ノ事務ヲ判ス延テ六月十五日ニ至ル但先是日向ノ賊竹田ヲ襲ヒ之ニ據ル大分地方ノ物情頗ル恟々タリ因テ山縣參軍及林内務少輔ノ旨ヲ奉ケ權令協議臨機非常ノ事務ヲ判ス

(三、九石井納)

六月十六日大分ヲ發シ熊本ニ向フ
 但竹田ノ賊既ニ潰散尋テ臼杵ニ據ル官兵之ヲ撃テ重岡ニ定ム大分
 地方始テ安堵ス故ニ發ス
 同十八日午前熊本ニ着ス參軍及内務少輔八代ニ在リ仍テ即時熊本ヲ
 發シ八代ニ至リ面晤ス同廿日參軍及内務少輔ノ旨ヲ承ケ鹿兒島縣下
 大隅國大口ニ向テ發ス同廿三日大口ニ着ス戰後ノ地民ヲ撫シ勞ラ各
 旅團ニ力ヲ協ス且該地方ヲ奔走シ戰後ノ事務ニ從ヒ延テ同廿八日ニ
 至ル同廿九日大口ヲ發シ出水ニ至ル同三十日出水ヲ發シ芝嶺ヲ經
 テ鹿兒島ニ達ス七月一日鹿兒島縣廳ニ入り縣令ニ面晤ス同三日加治
 木地方ヲ巡撫シ延テ同六日ニ至ル同七日鹿兒島ヲ發シ海路長崎ニ至
 ル
 但初メ百一郎ノ大口ニ至ルヤ當時鹿兒島縣廳賊ノ重圍スル所ト爲
 リ只舟路ヲ開クノミ而シテ各處地ノ官軍肥後地ヨリ急ニ進入シー
 ノ地方官ナク戰後ノ撫育及輻重等ノ事ヲ缺クノ報アルヲ以テ鹿兒

東京府

島連絡マテ假ニ鎮撫ノ事ニ處スヘキ旨ヲ承ケ同地ニ留リシカ鹿兒
 島ノ重圍已ニ解ケ連絡セルカ故ニ一タヒ縣令ニ面晤シテ後長崎ニ
 至レリ同九日鹿兒島賊徒暴舉以來各所ニ出張盡力候段深ク被思召
 苦勞依之慰勞トシテ酒肴料下賜候事
 同十二日長崎ヲ發シ佐敷ニ至ル帝在マテ同廿一日ニ至ル但參軍ノ
 命ニ依テナリ同廿二日佐敷ヲ發シ再ヒ長崎ニ至ル同廿七日内務卿
 ノ命ニ依リ長崎ヲ發ス同廿九日大阪ニ着シ内務卿ニ謁シ命ヲ復
 ス同三十日ヨリ本務ニ服シ陸路愛知縣廳ニ過リ八月十五日ヲ以テ
 東京ニ歸着シ後 天皇陛下ニ拜謁スルノ榮ヲ辱セリ
 明治十年十二月十五日 敍勳四等賜旭日小綬章
 同 十年十二月十五日
 九州地方騷擾ノ際盡力不諍候ニ付勳四等ニ敍シ年金百三拾五圓下
 賜候事 (太政大臣三條實美)
 同 十一年 戊寅 八月二日 宮城縣出張申付候事 (内務省)

(三、九石井納)

東京府

明治十二年 卯 己 九月六日 宮城縣出張申付候事 (内務省)
 同 十二月一日 砂防ノ義ニ付淀川並木曾川筋へ出張申付候事 (内務省)
 同 十三年 庚 辛 五月廿五日 任内務大書記官 (太政官)
 同 六月十九日 叙從五位 ()
 同 十二月十日 山形縣出張申付候事 (内務省)
 同 十四年 辛 巳 三月卅一日 東京府下和田倉門内ヨリ失火ノ節罹災者へ金貳拾圓施與候ニ付爲其資本杯壹圓下賜候事 (太政官)
 同 四月十四日 開拓使管下函館區堀江町失火ノ節罹災者へ金拾五圓施與候ニ付爲其資本杯壹圓下賜候事 (太政官)
 同 六月廿八日 農商工上等會員被仰付候事 (太政官) 但農部專務ノ事
 同 九月廿六日 大阪並石川縣へ出張申付候事 (内務省)

明治十五年 午 壬 六月十九日 土木工費會計主務兼^勅仰候事 (太政官)
 同 九月十三日 福島宮城兩縣へ出張申付候事 (内務省)
 同 十六年 癸 未 三月三日 御用有之野蒜へ出張申付候事 ()
 同 七月二日 福島縣へ出張申付候事 ()
 同 十七年 甲 申 二月廿六日 任岩手縣令 (太政官)
 同 七月廿三日 自今月俸三百圓下賜候事 ()
 同 十八年 乙 酉 四月七日 叙勳三等賜旭日中綬章 (賞勳局)
 同 四月十四日 陸中國東若井郡薄衣村失火之節罹災者へ金參拾圓施與候段奇特ニ付爲其資本杯壹圓下賜候事 (賞勳局)
 同 十九年 丙 戌 七月十九日 任岩手縣知事 (内閣總理大臣奉)
 同 十月廿八日 叙勅任官二等賜下級俸 ()
 同 叙從四位 ()
 同 二十二年 巳 丑 二月四日 今般憲法發布並皇室典範御治定ニ付奉吉ノ爲其縣管内國幣社へ勅使トシテ參向被

(三、九石井納)

東京府

明治卅九年 丙午 四月一日
 明治卅八年 事件ノ功ニ依リ勳二等瑞寶章ヲ授ケ賜フ(賞勳局)

明治卅五年 四月 青森市大字松森町ヨリ浦町ニ至ル里道敷地トシテ田地壹反壹畝貳拾九步奇附候段奇特ニ付爲其賞銀杯壹個下賜候事(賞勳局)

明治卅七年 八年 戦役ノ際報國ノ旨意ヲ以テ出征軍人家族遺族及護兵救護ノ爲メ帝國軍人援護會ヲ經テ金壹百圓奇附候段奇特ニ候條其賞トシテ木杯壹組下賜候事(賞勳局)

同 四十五年 壬子 一月廿日
 鹽谷郡船生村尋常高等小學校基本財産トシテ金四拾圓奇附候段奇特ニ付爲其賞木杯壹個下賜候事(栃木縣知事)

大正元年 壬子 八月一日
 明治四十五年 勅令第五十六號ノ旨ニ依リ韓國併合記念章ヲ授與セラル(賞勳局總裁)

大正元年 十二月二十九日
 明治天皇御遺物別紙目錄之通以思召下賜相成候條此段申入候也(宮内大臣)

同 二年 癸丑 二月六日
 一掛 物 壹 幅 一 尺 入 壹 個
 鹽谷郡船生尋常高等小學校増築費トシテ金拾圓奇附候段奇特ニ付爲其賞木杯壹個下賜候事(賞勳局)

同 四年 乙卯 十一月十日
 大正四年 勅令第五百十四號ノ旨ニ依リ大禮記念章ヲ授與セラル(賞勳局)

同 十二月二日
 御紋章付銀杯壹組御酒肴料金貳拾五圓下賜セラル 但御目錄(宮内省)

同 五年 丙辰 一月廿六日
 明治四十四年 七月 青森市石森橋合浦間道路開鑿敷地トシテ宅地貳百參拾八坪餘田壹反參畝拾步奇附候段奇特ニ付爲其賞銀杯壹組下賜候事(賞勳局總裁)

同 二月一日
 明治四十二年 十月 青森市青柳橋及桑町ヨリ造道字浪打ニ至ル道路開鑿敷地トシテ田壹段參畝拾六步宅地貳百五拾八坪奇附候段奇特ニ付爲其賞銀杯壹組下賜候事

(三、九石井納)

大正五年三月三十日

青森市公園地道路修繕ノ際入夫五十八土砂五十坪餘田村善治外七名ト共同奇附候段奇特ニ付爲其實木杯壹個下賜候事(青森縣知事)

同

同 四年乙卯十二月十五日

青森市石森橋ヨリ公園ニ至ル道路修繕費トシテ金八拾四圓寄附候段奇特ニ付爲其實木杯壹個下賜候事(青森縣知事)

同 五年丙辰四月一日

大正二年北海道外六縣凶作及同三年鹿兒島縣櫻島爆發ノ際罹災窮民ヘ金五圓賑恤候段奇特ニ候事(北海道廳長官依孫一)

同 八年巳未二月十一日

大正三四年事件ノ功ニ依リ旭日重光章ヲ授ケ賜フ(賞勳局總裁正親町實正)

同 五月十一日

多年貴族院議員ノ職ニ在リテ勳勞不渺依テ金杯壹個ヲ賜フ(賞勳局總裁兒玉秀雄) 皇太子殿下御成年式被爲行ニ付 殿下ヨリ御目錄壹封(金參拾五圓)下賜(宮内大臣)

東京府

大正九年庚申一月四日

高齡ニ付御目錄ノ通(御紋章入銀杯壹個御酒肴料金拾圓)下賜ル旨口達(宮内大臣)

同 十一月一日

同 十年辛酉七月一日

大正四年ノ至九年事件ノ功ニ依リ金杯壹個ヲ賜フ(賞勳局總裁兒玉秀雄)

同 昭和三年戊辰十一月十日

大正十年勅令第三百七十二號ノ旨ニ依リ第一回國勢調査記念章ヲ授與セラル(賞勳局總裁兒玉秀雄)

同 昭和三年十一月十日

金杯壹個ヲ下賜セラル(賞勳局總裁天岡直嘉)

同 五年庚午一月四日

御大禮記念章ヲ授與セラル() 銀杯壹組下賜セラル 天皇 后皇兩陛下ヨリ (宮内大臣) 御紋附銀盃壹組酒肴料金參拾圓下賜 高齡ニ付 (宮内大臣)

(三、九石井納)

石井省一郎君詳傳

君幼名ハ治太郎後與一郎ト稱シ家後省一郎ト改ム祖先ハ平氏ヨリ出テテ世々播州明石中ノ莊ニ住ス因テ明石ヲ氏トス數世ノ祖與次兵衛海軍ノ技ニ精シ能島來島等ト舟師ヲ率キテ明及ヒ呂宋ヲ侵略スルコト數次彼ノ國大ニ震懼セリト云フ秀吉ノ初メテ播州ニ入ルヤ與次兵衛族ヲ舉ケテ之ニ屬ス秀吉賜フニ石井ノ氏ヲ以テス爾後改メテ石井氏ト稱ス與次兵衛死ス子助太郎及ヒ孫與八郎ニ至ルマテ豐臣氏ニ諫ス秀頼亡フルニ及ヒ與八郎逃レテ諸國ニ流落ス徳川氏ノ天下ヲ統一スルヤ小笠原忠眞下總ノ古河ヨリ封ヲ播ノ明石ニ移シ石井氏ノ名族ナルヲ聞キ招キテ之ヲ厚遇ス後小笠原氏小倉ニ移ルニ及ヒ與八郎カ子與次太夫モ亦隨ヒ徒ル於是子孫世々小倉藩士タリ君カ父名ハ正明通稱勝助崎田氏ヨリ出テ、石井氏ヲ續ク母ハ石井氏名ハ文子君天保十二年辛丑十二月廿八日ヲ以テ豊前ノ國企救郡田野新町郷ニ生ル妹一人アリ天ス君幼ニシテ藩學思水館ニ入り文武ノ業ヲ修ム專ラ海軍明石流ヲ究メ傍諸家ノ兵書及

東京府

ヒ經史ヲ讀ム海軍明石流トハ祖與次兵衛カ遺法ニシテ小笠原氏資リテ以テ一藩士太夫ニ授クル所ノ技ナリ元治元年外艦ノ馬關ヲ侵スヤ君慷慨措クコト能ハス奮起牀頭一慨然壯懷欲逐漢張奮休言功業成兼否烈士從來恥瓦全ノ一詩ヲ賦シテ爲スアラントス果サス幕府長州再征ノ舉アルニ當リテ君初メテ他藩應接掛ヲ命セラレ京攝及ヒ各地ヲ奔走ス長豊兵結ヒテ解ケサルニ及ヒ藩ニ歸リ大義名分ヨリ天下ノ大勢ニ鑑ミ幕政地ニ墜テ久シク存スル能ハサルヲ説キ專ラ長ト連和シ共ニ勤王ノ事ヲ行ハンコトヲ務メ薩藩大山格之助(當時七卿護衛ノ爲メ太宰府ニアリ)ト謀リ馬關ニ至リ長藩前原彦太郎(當時原頼介ト變名ス)國貞直人等ニ會見ス後遂ニ和議成ル慶應三年丁卯冬幕府大ニ諸侯ヲ京師ニ會シ大政返上將軍職辭退ノ議ヲ定ム藩主忠忱猶幼ナリ一門小笠原内匠ヲシテ代リテ京師ニ至ラシム君之ニ隨ヒ内外ノ事ニ干與ス

明治元年戊辰一月徳川慶喜會桑二藩ノ兵ヲ率キテ京ニ入ラントス官兵

(三)石井省

邀ヘテ之ヲ伏見ニ擊破ス尋テ討幕ノ詔アリ君此時京ニ在リ憂ヘテ曰ク
小笠原家ハ世々徳川譜第ノ諸侯タリ幕旨ヲ奉シテ長ト事ヲ構フル數年
遂ニ會桑二藩ト同視セラル、ニ至ル去歲桃ニ長ト和スト雖モ朝廷豈能
ク我カ倉藩ニ脅威センヤ且ツ藩情概ネ佐幕ニ在リテ天下ノ大勢ニ盲シ
此ノ時ニ當リテ外朝廷ノ意ヲ解キ内藩士ノ方向ヲ決センニハ藩兵ヲシ
テ討幕ノ兵ニ加ハラシメ以テ實功ヲ擧クルニ如クハナカルヘシト竊ニ
朝ニ請ヒ遂ニ出兵ノ命ヲ得タリ君此ニ於テ程ヲ兼ネ藩ニ歸リ直ニ藩廳
ニ入り辯論誠諭七日ニシテ兵ヲ出スコトヲ得タリ（其兵肥前ノ兵ト共
ニ九條殿ヲ護シテ盛岡ヲ歷テ秋田ニ入り薩長ノ兵ト合シテ數賊ト戰ヒ
功アリ）此ニ於テカ一藩ノ方向稍定レリ君此ノ機ニ乘シテ同志ト大ニ
藩政ノ改革ヲ謀リ冗官ヲ淘汰シ兵制及ヒ民政ヲ改革センコトヲ建議ス
藩主後見人小笠原近江守（末藩千束藩主）及ヒ藩老等其議ヲ容レ君及
ヒ同志數輩ヲシテ改革ノ任ニ當ラシム君同志ト謀リ青年有爲ノ士ヲ集
メ二中隊ヲ編シ兵器ヲ授ケ藩廳附近ノ寺院ニ屯セシメ以テ反對黨ニ備

東京府

ヘ改革ヲ實行シ大勢全ク定ムルコトヲ得タリ明治二年五月民部官出仕
ヲ命セラル共七月信濃國贖金ニ關スル一據アリ君命ヲ受ケ伊奈縣廳ニ
至リ同國各藩重役ヲ會シ贖金處分ニ關スル政府ノ方針ヲ懇諭ス幾モナ
クシテ鎮定ス明治三年春山口藩ノ浪士某愚民ヲ煽動シテ石州濱田ノ倉
廩ヲ奪ヒ人民騷擾ノ報アリ君命ヲ奉シ程ヲ兼ネテ到レハ事已ニ定ル偶
長州脫隊ノ擧アリ敗兵數百人濱田縣ニ遁レ來リテ再擧ヲ謀ル君縣知事
眞木某ト共ニ諭スニ順逆ヲ以テシ盡ク捕ヘテ之ヲ長藩ニ致シ事平クヲ
得タリ同年冬土木權正ニ任セラル因テ二事ヲ建議ス一ニ曰ク工學校ヲ
興シ工師ヲ養成スヘシニ曰ク工師ヲ養成スルニハ年月ヲ要ス因テ和
蘭工師ヲ傭聘シ目下工業ノ改良ヲナサシムヘシト然ルニ工學校ノ設置
ノ如キハ山尾庸三ノ建議ニ基キ政府既ニ工學寮設置ノ内議決セルニ依
リ蘭工師傭聘ノ事ハ直ニ採用セラレ翌年ヲ以テ和蘭長工師及ヒ工師來
朝ス明治八年冬左大臣島津久光書ヲ上リテ太政大臣及ヒ參議ヲ彈劾ス

參議板垣退助モ亦書ヲ上リテ時事ヲ陳フ用ヒラレス各職ヲ辭シテ郷ニ
歸ル是ノ時ニ當リテ韓兵我カ雲揚艦ヲ砲撃シ天下騒然タリ朝廷特ニ使
ヲ各地ニ派シテ民心ヲ諭撫セシム時君命ヲ奉シテ西京大阪兵庫堺奈良
小倉佐賀福岡大分三潁長崎宮崎鹿兒島ヲ巡撫ス同九年太政大臣三條公
ニ隨ヒ北海道ヲ巡視ス初メ大久保公ノ内務卿ノ任ニ當ルヤ意專ラ殖産
興業ニアリ以爲ク關西地方ハ自然ノ發達ニ任スルモ亦可ナリ奥羽ハ天
府ナリト雖モ人力ニ因ラサレハ其功期スヘカラス此ノ行特ニ公ノ意ヲ
受ク歸途和蘭長工師ト各地ヲ巡視シ野蒜築港北上川改修陸中羽後ヲ貫
通スル道路及ヒ陸前羽前ヲ貫通スル道路改修ノ計畫等此ノ時ニ起因ス
同十年二月車駕西京ニ幸ス偶西郷隆盛反シ兵ヲ擧ケテ肥後ニ入ル内務
卿大久保公召サレテ西京ニ來ル是ノ時君公用ヲ以テ阪地ニ在リ十一日
大久保公君ヲ其旅館ニ招キ曰ク西邊已ニ開戦ノ報アリ山口福岡大分三
縣士民ノ嚮背物情ノ穩否ヲ視察スヘシト君直ニ途ニ上リ廿三日馬關ニ
着ス山口縣令旨ヲ受ケテ來會ス同日福岡ニ到リ參軍山縣公ニ面ス公曰

東京府

ク官軍新ニ肥後ノ國南ノ關口ヨリ進ム民心恟々嚮背未タ知ルヘカラス
暫ク同地ニ至リ鎮撫ノ任ニ當リ陸軍ヲシテ後顧ノ煩ナカラシムヘシト
此ニ於テ内務卿ノ旨ヲ請ヒ直ニ南ノ關ニ到ル君ノ南ノ關ニ入ルヤ小倉
分營ノ兵熊本ニ至ルノ途賊ト木ノ葉ニ會戦ス利アラサス三浦三好ノ兩少
將急ニ少兵ヲ率キテ肥後ニ入リ三浦少將ハ山鹿ノ賊ヲ控シ三好少將ハ
高瀬ノ賊ヲ擊退ス時三好少將ハ微傷ヲ負ヒテ南ノ關ニ在リ此ノ地自ラ
陸軍根據地ノ如シト雖モ大兵未タ到ラス輻重未タ調ハス民心危懼嚮背
未タ定ラス纔ニ熊本縣吏ノ脱シ來ル者アリト雖モ倉皇爲ス所ヲ知ラス
因テ假廳ヲ南ノ關ニ開キ縣吏及ヒ戸長等ヲ督シ縣務ヲ處理シ專ラ民心
ヲ鎮撫ス傍力ヲ旅團ニ協ハス初メ賊ノ肥後ニ入ル時熊本縣御船假廳土
寇ニ襲ハレ權令僅ニ身ヲ以テ逃レ城ニ入ル僚屬皆解散ス故ヲ以テ行在
太政官君ニ命シ熊本縣權令富岡敬明瀧城中權令心得ヲ以テ事務ヲ處理
セシム三月廿五日假廳ヲ岩崎原ニ移ス此ノ時ニ當リテ舊中津藩士暴擧
シテ大分縣廳ヲ襲ヒ賊ニ合同スルノ報アリ君山縣參軍ノ旨ヲ請ヒ豊後

(三、五石井續)

ノ國日田ニ到レハ賊已ニ大分縣廳ヲ襲ヒ勝タスシテ肥後ノ國小國ニ出
テ遂ニ二重嶺ノ賊ニ合スルノ報アリ因テ岩崎原假廳ニ歸ル同十五日川
尻口ノ官軍熊本城ニ連絡シ木留植木ノ賊解散ノ報アリ同十六日早天岩
崎原ヲ發シ諸軍ト共ニ熊本城ニ入り富岡權令ニ面晤シ廳務ノ授受ヲ了
セリ爾後權令ト協議シ八代地方戰後ノ民心ヲ鎮撫ス賊日向ヨリ豊後ヲ
襲ヒ竹田ニ據ル大分地方民心頗ル動搖ノ報アリ因テ山縣參軍林内務少
輔ノ旨ヲ受ケテ大分縣廳ニ至リ權令香川眞一ト謀リ民心ヲ鎮撫シ臨機
事ヲ處ス六月三日賊白杵ヲ陷レテ大分縣廳ヲ襲フノ報アリ當時大分廳
下^任ニ警部巡查ノミニテ他ニ一兵ナシ事體頗ル危シ因テ急ヲ與中佐ニ
告ク中佐直ニ少兵ヲ率キテ府内城(是時縣廳ハ城中ニ在リ)ニ入り縣
官及ヒ巡查ヲ併セテ籠城ノ議ヲ決ス時竹田ノ賊敗レテ遂ニ白杵ノ賊ト
合ス官兵討チテ之ヲ二重嶺ニ蹙メ大分地方始メテ堵ニ安スルコトヲ得
タリ六月十六日大分ヲ發シ山縣參軍及ヒ林内務少輔ニ八代ニ會ス時官
軍連捷大隅ニ進ム然レトモ鹿兒島縣廳猶賊ノ重圍内ニ在リ因テ山縣參

東京府

軍ノ軍ト共ニ同國大口ニ入り民心ヲ鎮撫ス其出水ニ至ルヤ川路少將ノ
別働隊旅團芝嶺ノ賊ヲ破リ鹿兒島ニ入ルノ報アリ君モ亦芝嶺ヨリ
鹿兒島ニ入り縣令岩村通俊ニ會ス爾後鹿兒島熊本ノ兩縣及ヒ長崎地方
ニ奔走ス此ノ時賊勢大ニ衰ヘ敗滅近キニアルヲ以テ内務卿ノ旨ヲ請ヒ
八月十五日ヲ以テ東京ニ歸リ 陛下ニ拜謁シ具ニ當時ノ事情ヲ上奏セ
リ初メ君ノ土木ニ從事スルヤ主トシテ幕府ノ弊習ヲ洗除シ大ニ廉潔ノ
士ヲ擧ケ專ラ和蘭工法ニ準據シ各種ノ工事ヲ改良ス就中道路橋梁制水
護堤及ヒ砂防工ノ如キハ特ニ實益ヲ増進セリ其他東京府下淨水管ノ配
置石川島及ヒ品川灣築港大阪築港ノ設計當時已ニ成ル且制ヲ歐州各國
ニ取り道路河川及ヒ港灣ノ大凡全國ノ利害得失ニ關スルモノヲ中央政
府ノ所屬トシ一縣ノ利害得失ニ關スルモノヲ地方廳ノ所屬トシ町郷ノ
利害得失ニ關スルモノヲ町郷ノ所屬トシ其他用惡水ノ如キ個人ニ關ス
ルモノヲ個人ノ所屬トスル等總テ其區分ヲ明ニシ從テ工費ノ負擔ヲ定
メ全國ヲ數區ニ分チ土木出張所ヲ置キ技師技手以下ヲ派シ中央政府所

屬ノ道路河川港灣ノ事ヲ司リ兼テ地方廳及ヒ町邨所屬ノ工務ヲ監督スル等ノ議ヲ立ツ(節目アリト雖モ之ヲ略ス)議政府ノ答ル、所トナリ明治八年全國ノ道路ヲ分チテ國道縣及ヒ町邨道ノ三種トスルノ按ヲ具シ地方官會議ニ附セラル、ヤ君答辯委員ノ任ニ當リ遂ニ該會ノ可決スル所トナリ政府ノ發令ヲ見ルニ至レリ河川ハ夙ニ淀川ニ土木出張所ヲ置キ續イテ利根木曾信濃北上逢隈吉野筑後庄ノ諸川ニ出張所ヲ置クト雖モ常ニ技師其人ニ乏シキト財政ノ許サマルトニ因リ僅ニ少額ノ工費ヲ以テ河身改修ノ工ヲ實施スルニ過キスシテ大ニ君ノ目的ヲ達スルニ至ラサルモ現行土木監督署ハ全ク之ヲ因襲シテ稍其規模ヲ擴充シタルヲ以テ惟フニ爾後國運ノ進歩ニ從ヒテ他日君カ前議ノ實行ヲ見ルニ至ルヘシ君嘗テ淀川水源ヲ檢スルヤ諸山概ネ緒ニシテ凡山骨出テ一草ヲ見ス宜ナル哉淀川々底逐年土砂堆積水害ノ甚シキコト依テ和蘭工師ト謀リ其殊ニ甚シキ山壑ヲ撰ヒテ各種ノ方法ヲ以テ砂防工及植樹ヲ試ミタリ時ニ明治七年ナリ越テ十二年ニ至リ山谷大ニ改マリ稚松長シテ人

東京府

肩ニ齊シキニ至ル當時維新創業ノ餘内閣諸公未タ這般ノ業ヲ顧ルニ違アラス是ニ於テ君殊ニ内務卿松方公ノ臨檢ヲ請フ公一見大ニ之ヲ賞シ淀川改修費ヲ増額シ其半額ヲ割キテ砂防及ヒ植樹ノ費ニ充ツルコトヲ決セラレ此年木曾川水源砂防工ニ着手シ兩川水源官私ノ山林伐採其他開墾ニ關スル省令ヲ發シ制裁ヲ定メラレ大ニ土砂并止ノ效ヲ見ルコトヲ得タリ君明治十七年二月ヲ以テ若手縣令ニ任セララル、ヤ縣治ノ觀ルヘキモノ多シ就中土木ノ事業及ヒ地價修正ノ舉ノ如キハ縣民ノ籍々稱道スル所ナリ夫レ若手縣ノ地形タル山野廣ク人口少ク山脈各邨落ヲ遮斷シ交通使ナラス從テ輸出品ハ常ニ價低ク輸入品ハ常ニ價貴シ自然產業發達ノ途ヲ杜絶シ人民生活ノ度極メテ低シ君ノ赴任スルニ及ヒ專ラ力ヲ運輸交通ノ便ヲ開クコトニ致ス先ツ國費四萬圓ヲ請ヒテ陸羽ヲ貫通スル平和街道ヲ修治シ續イテ各自ノ寄付金ト地方稅及ヒ國庫ノ補助金トヲ合セテ拾五萬圓ノ費額ヲ以テ險ヲ夷ニシ迂ヲ直ニシ管下國道五十里ノ長キ車輪ヲ快轉スルヲ得ルニ至ル且縣會ノ決議ヲ以テ北上川土

木出張所ノ直轄工事ニ係ル河身改修費ニ對シ地方税ヨリ金四萬圓ヲ寄
送シ速ニ舟運ノ利ヲ開カンコトヲ請ヒ同時ニ盛岡市人ニ説キ工費三萬
圓ヲ豫シ市區ヲ改正シ街路及ヒ溝渠ヲ改良ス其他監獄ノ改築縣下一ノ
關ヨリ宮城縣氣仙沼ニ達スル縣道開鑿ノ如キ地方税及ヒ寄付金ノ支出
ニ係ル費額十六萬圓餘ニ至ル工事皆相前後シテ成功ス舊盛岡領ノ地タ
ル之ヲ舊仙臺領ニ比シ田野肥沃ト謂フヘカラス運輸利便ト謂フヘカラ
ス而シテ地價額ノ如キハ却テ其上ニアリ廿二年偶地價特別修正ノ事ア
リ議主税局ト協ハス君意ヲ決シテ東京ニ至リ大藏大臣ニ具陳スル處ア
リ遂ニ耕地價額七拾六萬八千參百餘圓ノ減額ヲ見ルニ至ル縣民之ヲ德
トス此ヨリ先各著名ノ地ニ達スル道路ヲ開鑿シ縣下一般ノ公益ヲ收メ
ンコトヲ企圖シ屬僚ヲ派シ實測ヲ爲サシメタリ廿三年ニ至リ測圖及ヒ
概計成ル路線ノ數十有四ニシテ工費六拾參萬餘圓トス遂ニ案ヲ具シテ
縣會ニ諮問セリ縣會之ヲ贊シ更ニ三四路線ヲ増加セリ因テ増加路線ヲ
實測シ翌廿四年ヲ以テ正式議案ヲ發センコトヲ期セリ而シテ君廿四年

東京府

四月ヲ以テ茨城縣知事ニ轉任シ事遂ニ止ム廿五年十一月疾ヲ以テ職ヲ
辭シ盛岡ニ閑居ス其間在京諸友ノ職ニアルモノ往々就官ヲ勸メ其ノ他
岩手縣及ヒ福岡縣ヨリ衆議院議員ノ候補タランコトヲ望ミ或ハ某々會
社ヨリ社長タランコトヲ求ムト雖モ皆應セス山水ノ間ニ靜養シ足京地
ニ入ラサルコト三年餘廿九年一月錦鷄間祇候ヲ命セラル廿年十二月貴
族院議員ニ勅撰セラル

維新前後國事ニ關スル經歷書

岩手縣士族

正四位勳二等

石

井

省

一

郎

天保十二年 辛 十二月廿八日 豊前國企救郡片

野新町村ニ生ル舊小倉藩士族

元治甲子外國聯合艦隊ノ馬關ヲ侵スヤ小倉藩之ヲ傍觀ス憤慨措ク能ハ
ス二三同志ト竊ニ志士ヲ糾合シ長藩攘夷軍ニ投セン事ヲ謀リテ果サス
慶應元乙丑冬他藩應接掛ヲ藩廳ヨリ命セラル藩制從來藩士及其子弟他
國ニ遊學シ且ツ他國人ニ面會スル事ヲ嚴禁セリ是ニ於テ始メテ他藩人ニ
交ル事ヲ得タリ當時幕府長州再征ノ意アリ大監察塚原但馬守久シテ小倉ニ
滞在シ九州各藩ノ情勢ヲ視察ス各藩亦幕府ノ態度ヲ探見シ敢テ去就ヲ明
カニセス此時ニ於テ藩主小笠原忠幹病ヲ以テ逝去セラル(兼ヲ秘ス)世

東京府

子忠忱ハ幼年ナリ執政徒ニ幕旨ヲ迎合スルニ阪々トシテ時勢ヲ解セラル
、モノ、如シ余輩同志ト屢々内外ノ大勢ニ鑑ミ宜シク長藩ト事ヲ共ニセ
ン事ヲ痛論セシモ容ル、處トナラス同二年丙寅ニ至リ長州再征ノ發令ア
リ尋テ小倉口總督トシテ閣老小笠原圖書頭幕軍ヲ率キテ小倉口ニ來タリ
九州各藩ノ出兵ヲ促ス熊本及久留米ノ兵先ツ來タル倉兵先頭ニアリ長兵
二回襲撃ス互ニ勝敗アリ幾モナクシテ熊本久留米ノ兵總督及幕軍ニ謙然
タラス俄然兵ヲ率キテ各其藩ニ歸ル總督及幕軍大ニ狼狽シ夜ニ乘シテ遁
逃ス時丙寅七月下旬ナリ余外一名直ニ京師ニ至リ其狀況ヲ朝廷及幕府ニ
具申ス爾後京坂ノ間ニ來往シ各藩志士ト交リヲ深クシ幕府ノ其職ニ堪ヘ
サルヲ覺ユ幾モナクシテ藝州及石州方面ノ幕軍敗退シ各藩ノ兵亦破レ續
々坂地ニ至リ尋テ朝廷止戦ノ命令ヲ發セラル延テ九月ニ至リ長倉交戦猶
激烈トノ報ニ接ス且ツ歸藩ヲ促シ來ル依テ歸藩ス長藩藝ニ藝石ノ幕軍敗
退スルヤ該地ノ兵ヲ馬關附近ニ集中シ大ニ倉藩攻撃ノ勢力ヲ加ヘ事態甚
タ急ナリ薩藩三雲藤一郎肥後藩秋吉又左衛門倉藩ノ爲ニ調停ヲ試ミ屢々

(三、九石井納)

兩軍ノ間ニ往復ノ末和解條件トシテ長藩出先將校ヨリ概略左ノ件ヲ申込
メリ

元治甲子以來我防長二州ノ人士倉藩ニ對シテ恨ヲ含ム深シ兵士ノ疑惑
容易ニ水解スル事能ハス依テ毛利家父子寃罪ノ晴ル、迄テ小笠原世子
(忠忱)ノ長藩ニ質タラン事ヲ欲ス且ツ日ヲ期シテ決答アルヘシ期去
レハ其翌日ヲ以テ總進撃ヲ開始スヘシ云々
トノ嚴談ヲ齎シ來タル報スルヤ忽チ一般人士ノ聞ク處トナリ憤慨特ニ甚
シ有志各處ニ集合シ直ニ決心隊ヲ編制シ赤心隊ト稱ス余カ同志モ亦之ニ
加ハル、モノ多シ事態甚タ險惡ナリ依テ藩廳茂呂三郎平外一人ヲ馬關ニ
遣リ長藩政務掛ニ面會シ世子父君ハ重患ニテ世子ハ事實上藩主ニ付キ希
望ニ應シ難シ和議ハ天幕ヨリ止戦ノ命アリタル後ナレハ双方和解速ニ兵
ヲ撤シタシ云々トノ談判ヲモ終ニ不得要領ニ了リ歸藩ス是ニ於テ余
ハ筑前國太宰府ニ至リ薩藩大山裕之助氏ニ謀リ氏ノ同意ヲ得テ馬關ニ至
リ長藩政務掛ニ面晤解決ヲ謀ル事ヲ約ス氏且ツ曰ク余明日ヲ以テ發途上

東京府

京ス途次馬關ヲ過リ長藩政務掛ニ子ノ意ヲ通シ置クヘシト余ハ一兩日中
ニ馬關ニ至リ前原彦太郎(當時原猶介ト變名セリ)國貞直人他一人ニ面
會シ長倉今日ニ至ル元治甲子以來ノ藩情ヨリ今後執ルヘキ方針ニ意見ヲ
叙述シ尙三氏ノ意見ヲ徵シ宵ヨリ二更ニ至ル意稍融和セシモ世子人質ノ
件ハ堅ク取りテ動かス止ムヲ得ス決答期日二週餘日ヲ延長シ歸途ニ就ク
後山口政府ハ人質ノ條件ヲ撤回シ守備隊境界ノ件ヲ約シ和解全ク成ル
慶應三丁卯冬幕府大ニ諸侯ヲ京師ニ會シ太政返上將軍職辭退ノ議ヲ定
ム藩主忠忱尙幼ナリ一門小笠原内直ヲ名代トシテ京師ニ至ラシム余之ニ
隨行シ内外ノ事ニ關與ス

明治元年戊辰一月會桑二藩ノ兵徳川慶喜先供ト稱シ伏見ニ入ル戰茲ニ
開ケ官兵之ヲ撃破ス尋テ討幕ノ大命アリ天下向背ノ分ル、所事態極テ大
ナリ而シテ小笠原家ハ徳川家譜代ノ諸侯ナリ會テ幕命ヲ承ケテ長藩ト事
ヲ構フル事久シ去歲僅ニ和解スト雖モ藩情猶概ネ佐幕ニアリ且ツ天下ノ
大勢ニ暗ク向背未タ計ル可カラス此ノ際朝命ヲ奉シテ直ニ歸藩我藩兵ヲ

シテ討幕ノ軍ニ加ハラシメ一舉其ノ方向ヲ定ムルニ如カスト思量シ竊カ
ニ太政要路ニ在ル某氏ニ就キ其ノ意ヲ内陳ス幾モナクシテ小倉藩ニ對シ
一中隊出兵ノ命下レリ余命ヲ奉シテ晝夜程ヲ兼テ歸藩シ直ニ家老小笠原
甲斐ノ邸ニ至リ告クルニ實ヲ以テシ竊ニ同志ヲ會シ出兵ノ議ヲ定ム
俗論果シテ紛起ス同志協力眞撫ニ務メ説クニ順逆ヲ以テシ七晝夜ヲ費シ
テ漸ク兵ヲ出ス事ヲ得タリ一該隊長ハ平井小左衛門ニシテ佐賀藩兵ト共
ニ奥羽總督九條公ヲ護衛シテ海路仙臺ニ至リ盛岡ヲ經テ秋田ニ入り薩長
ノ兵ト合シ奥羽同盟軍ニ當ル一而シテ一藩人士ノ方向未タ定マラス政弊
亦多シ此際一大改革ヲ斷行シ俗吏ノ淘汰軍制ノ改正民政整理ノ必要ヲ感
シ同志相謀リ先青年志士ヲ糾合シテ二中隊ノ兵ヲ編制シ環衛隊ト名ケ武
裝シテ藩廳ノ傍ニ屯衛セシメ以テ反對黨ニ備ヘ改革ヲ斷行シ大勢全ク定
マル此時ニ於テ恰モ好シ會津征討ノ爲メ至急該地ニ向ケ一大隊ノ兵ヲ出
スヘキ旨朝命アリ特ニ其ノ爲メ豐海ニ汽船ヲ回航セラル海路越後口ニ至
リ會津ニ達シ戰線ニ加ハル藩情益々振フ越テ明治二年俗論黨ノ首領ヲ以

東京府

テ目セラル、小宮民部（舊家老）藩命ニ依リ屠腹シテ其罪ヲ謝セリ
明治二年己乙四月藩用ヲ以テ上京ス五月召サレテ民部官ニ奉任同七月
信濃國費金ニ關シ民情騷擾一撥兼發ス御用有之至急伊奈縣ニ罷起可申
旨民部官ヨリ命セラル廣澤副知事（兵助）ノ旨ヲ承ケテ同縣ニ至リ縣知
事協議各藩重役ヲ縣廳ニ召集シ費金ニ關スル處分ニ付キ旨ヲ傳フ猶左ノ
達シヲ受ク

費金ノ儀ニ付別紙（別紙布告略ス）之通り御布告相成候間相問シ候右
ノ御趣意ヲ以テ出張先眞撫方精々盡力可有之候最モ伊奈縣ヘモ相達候
間此段爲心得申添候也

七月廿八日

民部省

幾クモナク物情全ク鎮靜ニ歸ス

同三年庚午二月暴徒石州ニ起リ且ツ長藩奇兵隊ノ脫隊來ル濱田縣騷擾
一件ニ付キ同縣出張ヲ民部省ヨリ命セラル別ニ達シ文左ノ通り

今般濱田縣騷擾ニ付キ同縣ヘ出張ヲ申付候間萬端縣官申談眞撫方行届

候様盡力可有之故右之趣濱田縣へモ相達置候條可得其意候事

午二月 民部省

當時山口藩ノ浪士某暴民ヲ煽動シ倉庫ヲ奪ヒ爲ス處アラントス縣情頗ル不穩ノ報アリ依テ晝夜程ヲ兼テ至ル至レハ事既ニ定マル偶々長藩奇兵隊ノ變アリ脱退ノ敗兵凡一大隊余濱田縣へ遁レ來ル同地ハ曾テ長軍ノ占領ニ係リ彈藥ノ尙倉庫ニ貯藏スルモノアルヲ以テ其意蓋シ之ヲ奪ヒ再舉ヲ謀ルモノ、如シ依テ縣知事眞木氏ト協議其隊長ニ會見シ諭スニ順逆ヲ以テシ遂ニ盡ク其ノ所持スル處ノ兵器ヲ受取其脱兵ヲ長藩ニ送致シ事平ヲ得タリ同五年壬申三月御用有之左ノ縣々へ出張スヘキ旨太政官ヨリ命セラレ

足柄縣外關東九縣

當時廢藩置縣ノ大改革アリ藩縣事務ノ授受ニ關スル錯雜及藩士ノ竊ニ不平ヲ抱クモノ少ナカラス物情動モスレハ不穩ナリ依テ井上大藏輔(鑿)ノ旨ヲ承ケテ縣知事協力藩縣財務ノ授受ヲ進捗シ併テ物情ノ穩否ヲ觀察

東京府

シ夫々命ヲ乞フテ處置ス

同八年乙亥五月地方官會議ニ付キ當省所屬ノ事務取調御用掛ヲ内務省ヨリ命セラル是ヨリ先木戸大久保伊藤井上板垣後藤ノ諸公大阪ニ於テ會セラレ其結果トシテ島津久光板垣退介ノ兩公入閣大審院元老院ノ創設地方官會議ノ開會等ノ制定アリ余等大久保内務卿(利通)木戸地方官會議々長(孝允)ノ旨ヲ承ケテ地方官會議ニ關スル事項ノ取調ニ從事シ且ツ開會中原案答辯ノ任ニ當ル

同十月御用有之^西關國筋出張ヲ太政官ヨリ命セラル

西國外附近三縣、九州各縣(全部)

左ノ通太政官ヨリ訓示ヲ受ク

今般特旨ヲ以テ各地方へ被差遣候ニ付テハ左ノ件々可相心得事

此程左大臣島津久光參議板垣退介各自意見上奏ノ處茂辰以來百度維新國家富強ノ基ヲ立テントシ漸次其緒ニ就ク況ヤ目下内外多事ニ際シ是宜シク諸官協同シテ共ニ成巧ヲ謀ルヘキ時ニシテ一二意見ニ因

(三、九右并納)

リ容易ニ紛更スヘカラサルヲ以テ右上奏御採用ナラサル旨聖斷被仰出然
 ル處兩人共辭表差出シ候ニ付其通被聞召候事
 先頃朝鮮國ニ於我雲揚艦ニ暴發砲撃セシ等ノ事ニ付テハ多少浮説モ有之
 趣ノ處我國政維新憐好保額ノ照會ニ對シ答文遷延スルニ付從前委曲ノ順
 序ニ從ヒ彼我交際ノ條理ヲ逐ヒ至當御處置アルヘキ事
 内外ノ事情ニ就キ紛議自然道路ニ傳播シ人民或ハ方向ニ惑等ノ事アルニ
 於テハ以テノ外ノ義ニ付政府撫民ノ御趣意各管下ニ貫徹セシメ候様注意
 可致事

凡管下ノ情勢諸報告書信ハ大臣ノ名ヲ宛差出スヘキ事
 太 政 大 臣 三 條 實 美

當時九州ノ情勢去年佐賀ノ變亂アリ鹿兒島ニ私學黨ノ變初タルアリ物情特
 ニ騷然タリ地方官ノ政府ノ旨ヲ傳へ各縣狀況ヲ審ニシテ歸京直ニ之ヲ上申
 ス後特ニ謁ヲ賜ヒ具ニ其狀情ヲ伏奏ス

同十年丁丑二月廿二日西國筋出張可致旨京師府出張大久保内務卿(利通)

東 京 府

旅館ニ於テ命セラル即時出發ス是ヨリ先鹿兒島私學黨兵ヲ擧ケテ肥後ニ
 入り川尻ニ於テ戰端ヲ開クノ報アルヲ以テ山口福岡大分三縣士民ノ向背
 物情ノ穩否ヲ視察スヘキ旨アリ船馬關ニ着スルヤ山口縣令内務卿ノ命ニ
 依テ來タリ會ス爾後小倉ニ入り有志ニ面會シ福岡縣廳ニ至リ縣令ニ面晤
 後山縣參軍ヲ其本營ニ訪フ是ヨリ先キ熊本縣御舟假縣廳土寇ニ襲ハル富
 岡權令熊本城ニ入り屬僚解散スルノ已ヲ得サル事情ニ陥リ且ツ人民ノ方
 向定マラス頗ル紛擾ノ情報參軍ノ聞ク處トナリ余ノ同地ニ至リ縣務ヲ處
 理シ人民ヲ鎮撫シ併テ各軍隊ト協力輸夫物資ノ供給等ニ盡力スヘキ旨ア
 リ依テ内務卿ニ電申シ命ヲ乞フテ肥後ノ國南ノ關ニ至リ三好少將ト協議
 直ニ假縣廳ヲ同地ニ開ク實ニ明治十年三月一日ナリ

此時ニ當リテ官軍先鋒程ヲ兼テ長驅肥後ニ入り一手ハ高瀬口ニ一手ハ
 山鹿口ニ會戰シ南ノ關ヲ本營トセリ而シテ急遽ノ際輜重輸卒未タ到ラス
 且ツ地方人民四散シテ其用ヲ充スヲ得ス加フルニ熊本本人ノ亂ヲ避ケテ來
 ル者日幾千ヲ以テ數フ而シテ狂々賊徒ニシテ避難民ヲ裝ヒ竊ニ彈藥庫ニ

(三)九石共誌

火ヲ放タン事ヲ企テ又ハ官軍ノ事情ヲ探知シ賊ノ本據ニ通スルモノ少カ
ラス物情甚タ危險ニシテ之カ嚴別ニ著シメリ余南ノ關ニ入ルヤ熊本屬官
ノ福岡ニ來ル者兩三名並ニ同地ニ在ル者五六名其他區長村吏ヲ督シ三好
少將ト協議シ人民ヲ鎮撫シ一面急ニ筑後地方ニ人ヲ派シ米穀ノ買入人夫
ノ雇上ヲ計リ僅ニ糧食及輸送ヲ充ス事ヲ得タリ更ニ福岡縣廳ニ協議シ熊
本人ノ避難シ來ルモノヲ保護ノ名ノ下ニ筑後國羽犬塚驛ニ留置シ他ニ行
ク事ヲ禁シ侵ス者ハ罰スル旨嚴達シ以テ事ナキヲ得タリ當時近邊各藩及
四國中國各藩ヨリ軍事視察ト稱シ日々幾人トナク南ノ關ニ入ル者多ク往
々賊ノ間諜其他舊藩士族ノ竊ニ不平黨ト氣派ヲ逞シ時機ヲ見テ暴發セン
ト期スル者アルヲ以テ從テ其管轄廳ノ保證アル者ノ外南ノ關ニ入ルヲ禁
シ該地方稍平穩ヲ保テリ(幾モナクシテ大分福岡佐賀ノ各地ニ暴徒蜂起
ス)後陸軍編重輪卒モ至リ山縣參軍福岡ノ本營ヲ高瀬ニ進メラレ以テ著
々整理セリ同三月七日熊本權令富岡敬明籠城中權ノ心得ヲ以テ事務取扱
フヘキ旨太政官ヨリ命セララル

東京府

同廿五日南ノ關假縣廳ヲ岩崎ニ移ス
同四月一日中津ニ暴徒蜂起ノ報アリ山縣參軍ノ旨ヲ承ケテ賊情視察ノ
爲日田ニ至ル賊既ニ大分縣廳ヲ襲ヒ敗レテ路ヲ轉シテ二重峠ノ私學黨ニ
投スルノ報ヲ得テ高瀬ニ歸リ復命ス
同十六日ノ朝官軍熊本城ニ連絡ノ報ニ接ス諸軍ト共ニ熊本城ニ入り富
岡權令ニ面晤事務ヲ引繼ヲ太政大臣並ニ内務大臣ニ申告ス
同十七日熊本縣權令心得ヲ免セララル
同五月廿日山縣參軍及林内務少輔(友幸)ノ旨ヲ承ケテ大分縣廳ニ至
ル是ヨリ先キ日向ノ賊竹田ヲ略取シ之ニ據ル大分地方物情恟々タリ權令
協議非常事務ヲ臨機處理ス越テ六月ニ至リ竹田ノ賊潰走白杵ニ據ル官兵
海陸ヨリ挾撃シ重岡ヲ蹙ム大分地方始テ安堵ス依テ八代ニ至リ復命ス
同廿日山縣參軍林内務少輔ノ旨ヲ承ケテ鹿兒島大隅國大口ニ至ル當時
鹿兒島縣廳賊ノ重圍スル處トナリ獨リ海路ヲ通スルアルノミ各方面ノ官
軍急進シ縣廳トノ連絡ナキヲ以テ人民撫育軍隊物資ノ供給等ノ事ヲ臨時

(三、九石井納)

處理ス幾モナクシテ困ミ解ケ出水口ヨリ芝嶺ヲ經テ鹿兒島ニ入り縣令
ニ面晤ス實ニ七月一日ナリ爾後鹿兒島熊本兩縣各地民情其他ノ事情ヲ巡
視シ同廿九日大阪ニ著シ内務卿ニ謁シ命ヲ復ス歸京後謁ヲ賜ヒ具ニ戰地
時情ヲ伏奏ス

東京府

昭和五年十月二十日

貴族院書記官長 成瀬

達

内閣總理大臣濱口雄幸殿

上申

貴族院議員 正四位勳二等石井省一郎
錦鷄間祇候

右本日卒去致候處同議員ハ明治二年五月民部省書記申付ケラレテ
テヨリ庶務司判事、大録、土木權助、土木權頭等ヲ經テ明治十年

貴族院

一月内務權大書記官ニ任シ土木局長被申付其ノ間信濃川分水路及
島根濱田兩縣水難檢分等其ノ他屢各地方ニ出張ヲ命セラレ土木治
水ノ實狀ヲ視察シ獻策規劃シ治績不尠次テ鹿兒島縣暴徒騷擾事件
ニ際會シ同年三月熊本縣權令富岡敬明籠城中同縣權令ノ心得ヲ以
テ事務ヲ主宰シ兵馬控働ノ間ニ在リテ鎮壓其他諸般ノ事務ヲ執掌
シ功績ヲ擧ク、明治十三年五月内務大書記官ニ任シ續テ岩手縣縣
令ヲ經テ明治十九年七月岩手縣知事、同廿四年四月茨城縣知事ニ
歷任シ地方行政事務ニ盡瘁ス

明治二十九年一月錦鷄間祇候被仰付現ニ其職ニ在リ同三十年十二
月貴族院議員ニ勅任セラレテヨリ茲ニ三十有二年十ヶ月餘ノ久シ

キ間慶~~々~~豫算委員其他ノ常任委員及特別委員タルコト百七回就中
保安條例廢止法律案、罹災救助基金法案、農會法案、汚物掃除法
案、産牛馬組合法案、酒造税法中改正法律案~~津案~~、麥酒稅~~案~~砂糖
消費稅法案、關稅定率法及同法附屬輸入稅表中改正法律案、地租
條例中改正法律案、鐵道敷設法中改正法律案、所得稅~~案~~中改正法
律案、會計士法案、肥料管理法^{等ノ重要ナル}特別委員~~員~~、副委員長ニ擧ケラ
レ常ニ時勢ノ推移ト世相ノ趨向ニ鑑ミ熱心且慎重ニ檢討シ克ク審
議ヲ盡シ協贊ノ任ヲ全フセルノ功績顯著ナリト存候間此際特ニ位
勳陞敘ノ恩典ニ浴セシメラルル様御詮議相成度別紙履歷書相添此
段上申候也

貴族院

追テ内務省在官中ノ功績ニ付テハ同省ヨリ其申ノ筈ニ有之候

編纂 岩手縣士族
 天保十二年十二月廿八日
 石井 省一郎
 本籍 盛岡市上衆小路町
 現住 東京市芝区二本榎西町一番地

年号	月	日	任	賞	罰	麻名
明治二年	五		書記申付候事			民部官
	六		庶務司判事申付候事			"
	七		御用有之至急伊奈縣へ罷越可申候事			"
	"		大録申付候事			民部省
	"		任兼大藏大録			"
	十		任監督大佐			"
	一一		當分西京在勤申付候事			"
三	二		澁田縣騒擾一件二付同縣出張申付候事			"
	九		任兼務大佐			"
	一一	五	任土木權正			太政官
	"		敍從七位			"
	"		大阪出張相達候事			民部省
四	八	二二	任土木權助			太政官
	一一	五	免本官大藏省七等出仕被仰付候事			"
五	三		御用有之左ノ縣々出張被仰付候事			"
			(縣名省略)			"
	九	四	任土木助			"
	一〇		敍從六位			"
	一一		信濃川分水路爲檢分申達候事			大藏省
六	二		大阪出張相達候事			"
	九		大阪出張相達候事			"
	一〇	一八	鳥根濱田兩縣水難場見分相達候事			"
七	二	二	任土木權頭			太政官
	六	一四	敍正六位			"
	九	二二	長崎白川三瀧三縣出張被仰付候事			内務省

貴族院

八、一三	地方官會議ニ付當省所屬ノ事務取調御用掛被仰付候事	"
八、九	新川縣大阪府出張被仰付候事	"
一〇、三一	御用有之西國筋出張被仰付候事 (地名省略)	太政官
一一、二	今般特旨ヲ以テ各地方へ被差遣候ニ付テハ左ノ件々可相心得事 一此程左大臣島津久光參議板垣退助各自意見上奏之處、辰以來百度維新國家富強ノ基ヲ立ントシ漸次其緒ニ就ク況ヤ目下内外多事ニ際シ是宜ク諸官協同シテ共ニ成功ヲ圖ルヘキ時ニシテ一二ノ意見ニ因リ容易ニ紛更スヘカラサルヲ以テ右上奏御採用ナラサル旨 聖斷仰出サル然ル處兩人共辭表差出候ニ付其通被聞召候事 一先頃朝鮮國ニ於テ我雲揚艦ニ暴發砲撃セシ等ノ事ニ付付テハ多少浮説モ有之趣ノ處我國政維新隣好保續ノ照會	太政官
貴族院		
九、七、二九	二對シ答文遷延スルニ付從前委曲ノ順序ニ從ヒ被我交際ノ條理ヲ遂ヒ至當御處置之アルヘキコト 一内外ノ事情ニ就キ紛議自然道路ニ傳播シ人民或ハ方向ニ惑フ等ノ事アルニ於テハ以之外ノ儀ニ付政府撫民ノ御趣意各管下貫徹セシメ候様注意可致事 一凡テ管下之情勢諸報告書信ハ大臣ノ名ヲ宛テ差出ヘキ事 太政大臣 三條實美	太政官
一〇、一一	北海道巡視隨行被仰付候事 但出張中内務權大員心得ノ事	太政官
一一、一一	土木局長申付候事 任内務權大書記官	内務省
一二、三	大阪府出張申付候事	"
一三、七	西國筋出張申付候事 熊本縣權令富岡敬明籠城中同縣權令ノ心得ヲ以テ事務取	"

七、九	撥被仰付候事	行在所太政官
七、九	鹿兒島縣賊徒暴舉以來各所へ出張盡力候段深夕被思召苦	太政官
一二、一五	勞依之慰勞トシテ酒肴料下賜候事	太政大臣 三條實美
一二、一五	九州地方騒擾ノ際盡力不勘候ニ付勳四等ニ敍シ年金百三十五圓下賜候事	太政大臣 三條實美
一一、八、二	宮城縣出張申付候事	内務省
一一、九、六	宮城縣下出張申付候事	"
一一、一	砂防ノ義ニ付淀川竝木會川筋へ出張申付候事	"
一三、五、二五	任内務大書記官	太政官
六、一九	敍從五位	"
一一、一〇	山形縣出張申付候事	内務省
一四、三、三一	東京府下和田倉門内ヨリ失火ノ節罹災者へ金貳拾圓施與候ニ付爲其賞木杯一箇下賜候事	太政官
四、一四	開拓使管下雨館區堀江町失火ノ節罹災者へ金拾五圓施與候ニ付其賞木杯一箇下賜候事	太政官
貴族院		
六、二八	農商工上等會員被仰付候事	太政官
但農部事務ノ事		
九、二六	大阪竝石川縣出張申付候事	内務省
一五、六、一九	土木工費會計主務兼勳被仰付候事	太政官
九、一三	福島宮城兩縣へ出張申付候事	内務省
一六、三、三	御用有之野蒜へ出張申付候事	"
七、二	福島縣出張申付候事	"
一七、二、二六	任岩手縣令	太政官
七、二三	自今月俸金參百圓下賜候事	"
一八、四、七	敍勳三等賜旭日中綬章	賞勳局
四、一四	陸中國東盤井郡薄衣村失火ノ節罹災者へ金參拾圓施與候段奇特ニ付爲其賞木杯一個下賜候事	
一九、七、二	地方官官制改革	
七、一九	任岩手縣知事被勅任官二等賜下級俸	内閣
七、二八	被從四位	

二二二	四	今般憲法發布並皇室典範御治定ニ付奉告ノ爲メ其縣管内國幣社へ勅使トシテ參向被仰付	宮内省
一一、二五		明治二二年八月三日勅令第百三號ノ旨ニ依リ大日本帝國憲法發布記念章ヲ授與ス	
二二三	一〇、一〇	地方官官等俸給令改正 年俸三千五百円	
二四	一〇、一一	年俸五百圓増賜	
二四	四、二四	任茨城縣知事 年俸三千五百円	
		殺勅任官二等	
		年俸五百圓増賜	
	八、一六	地方官官等俸給令改正 年俸三千円	内閣
		年俸八分ノ一増賜 三百七十五円	
	五、四	前官ノ事務繼續トシテ岩手縣へ出張被仰付	内務省
二一五	二、一三	殺正四位	宮内省
	三、九	格別勲勵ニ付金貳百圓賞與	内務省
	一一、一六	依願免本官 (疾病職務不能ニス)	内閣
貴族院			
	一一、三〇	前官事務引繼トシテ茨城縣へ出張ヲ命ス	内務省
二九	一、一六	錦鶏間祇候被仰付	宮内省
三〇	一一、二三	貴族院令第一條第四項ニ依リ貴族院議員ニ任ス	
三九	四、一	殺勳二等授瑞寶章	賞勳局
四〇	四、一六	明治三十七八年事件ノ功ニ依リ勳二等瑞寶章ヲ授ケ賜フ	
		明治三十七八年戰役ノ際報國ノ旨意ヲ以テ出征軍人家族遺族及廢兵救護ノ爲帝國軍人援護會ヲ經テ金百圓寄付候段奇特ニ候條爲其賞木杯一組下賜候事	
大正元年	八、一	明治四十五年勅令第五十六號ノ旨ニ依リ韓國併合記念章ヲ授與セララル	賞勳局
四	一一、一一	大正四年勅令第一五四號ノ旨ニ依リ大禮記念章ヲ授與セララル	"
五	一、一六	明治十四年七月青森市石橋合浦公園間道路開鑿敷地トシテ宅地二百三十八坪餘田一段三畝十步寄付候段奇特ニ付爲其賞銀杯一組下賜候事	"
	一、二八	明治四十二年青森市青柳橋及榮町ヨリ造道字浪ニ至ル	"

		道路開墾敷地トシテ田一段三畝十六歩宅地二百五十八坪 寄付候段奇特爲其賞銀杯一組下賜候事	
五	四、一	授旭日重光章	
八	二、一	大正三四年事件ノ功ニ依リ旭日重光章ヲ授ケ賜フ	
九	一、一	多年貴族院議員ノ職ニ在リテ勤勞不尠依テ金杯一個ヲ賜フ	
一〇	七、一	大正十年勅令第二百七十二號ノ旨ニ依リ第一回國勢調査 記念章ヲ授與セラル	
昭和三年	一、一〇	金杯一個ヲ賜フ	
	二、一四	昭和三年勅令第八十八號ノ旨ニ依リ大禮記念章ヲ授與 セラル	
貴族院			

位勳爵	博士	府縣族籍	生年月日	原籍	現住所	年號	月	日	任免賞罰事故	官銜
		岩手縣士族	天保十一年十二月二十八日	舊藩小人居		明治二年	五月		書記申付候事	氏部者
						同	六月		庶務司判事申付矣事	
						同	七月		御用有之至急伊奈縣へ罷就可申付矣事	
						立	立		大録申付矣事	大藏者
						立	立		任兼大藏大録	
						立	十月		任監督大佑	氏部者
						立	十月		當今西京在勤申付矣事	
						立	十月		濱田縣騒擾一件二付同縣出張申付矣事	
						三年	九月		任庶務大佑	
						立	十月五日		任土木権正	大政官
						立	立		敘從七位	
						立	立		大坂出張相達候事	氏部者
						四年	八月廿二日		任土木権助	大政官
						立	十月五日		免本官大藏者七等出仕被仰付候事	
						五年	三月		御用有之左之縣へ出張被仰付候事	
						立	九月四日		足柄縣、神奈川縣、八河縣、埼玉縣、木更津縣、印旛縣、新治縣、茨城縣、栃木縣、宇都宮縣	
						立	十月		任土木助	
						立	十月		敘從六位	
						立	十月		信濃川分水為檢分出張申達候事	大藏者
						七年	二月		大坂出張相達候事	
						立	九月		大坂出張相達候事	
						立	十月十八日		鳥根縣濱田縣西敷水碓場為見分出張相達	

履 歴 用 紙 岩 手 縣

名 氏 石井省一郎

七年	二月二日	任土木権頭	大政官
七年	文月十四日	叙正六位	
七年	九月廿二日	長崎白川三浦三縣出張被仰付候事	内務省
八年	五月十三日	地方官會議ニ付當有所属事務取調御用係被仰付矣事	
七年	八月九日	新川縣大坂府出張被仰付候事	
七年	十月廿日	御用有之西國筋出張被仰付矣事 西京大坂兵庫 境 大坂 良 小倉 左賀 福岡 大分 三浦 長崎 宮崎 鹿児島	大政官
七年	上月二日	今般特旨ヲ以テ各地方へ被差遣候ニ付テハ左ノ件件可相心得事 一此程左大臣島津久光參議板垣退助 各自意見上奏ノ慶成辰以來百度維新國家富強ノ基ヲ立ラントシ漸次其緒ニ就ク況ヤ目下内外多事ニ際シ是宜シテ諸官協同シテ共ニ成功ヲ圖ルヘキ時ニシテ一二ノ意見ニ因リ容易ニ紛更ムルヘカラスルヲ以テ右上奏御株用ナラシメ上日 聖斷仰出サレ然ル慶西人共辭表差出候ニ付其通被聞召候事 一先頃朝鮮國ニ於テ我我雲場艦ニ要發砲撃セシ等ノ事ニ付テハ多少浮説ニ有之趣ノ慶我國政維持新濟好保領ノ照入會ニ對シ答同遷延スルニ付從前委員曲ノ順序ニ從ヒ彼我之實際ノ條理ヲ逐ヒ至當御處置可有之事	岩 手 縣

九年	七月廿九日	北海道巡視隨行被仰付事	大政大臣
十年	一月廿日	土本寮被發土本局神置	〃
十年	一月廿日	任内務權大書記官	〃
十年	二月三日	土本局長申付候事	内務省
十年	二月三日	大坂府出張申付候事	〃
十年	二月廿三日	西國筋出張申付候事	〃
十年	三月七日	熊本縣權令富岡敬明菟城中之罪權令 ノ心得ヲ以テ事務取扱被仰付候事	所在所 大政大臣
十年	七月九日	鹿児島賊徒暴挙以來各所へ出張尽力候 段深ク被思召苦勞依之慰勞トシテ酒肴 料下賜候事	大政大臣
十年	十二月十日	九州地方騷擾ノ際尽力不少候ニ付勲四等 ニ叙シ年々五百參拾五圓下賜候事	大政大臣 三條實美
十一年	八月二日	宮城縣出張申付候事	内務省
十一年	九月二日	宮城縣下へ出張申付候事	〃
十一年	十一月一日	砂防ノ儀ニ付定川並木曾川筋へ出張申付 候事	〃
十一年	五月廿五日	任内務大書記官	大政大臣
十一年	六月十九日	敘從五位	〃
十一年	十二月十日	山形縣出張申付候事	内務省

履 歴 用 紙 岩 手 縣

一内外ノ事情ニ付紛議自然道路ニ傳播
シ人民或ハ方向ニ惑フ等ノ事アリニ於テ以ノ
外ノ儀ニ付政府撫民ノ御趣意各官
下員徹セシメ候様注意可致事ノ凡テ
管下ノ情勢諸報告書信ハ大臣ノ名
シ宛テ可差出事
大政大臣 三條 實美

西 三 年	三月廿一日	東京府下和田倉門、失火、節罹災者、金五圓、下賜 候事	大政官
三 年	四月十四日	開拓使管下、區、江町、失火、節罹災者、 者、金拾五圓、施與候、付為其、木杯一箇、下賜 候事	
十 四 年	六月廿八日	農商工上等、人、曾、員、被、仰、付、候、事	大政官
三 年	九月廿六日	但、農、部、專、務、ノ、事	
十 五 年	六月十九日	大坂、並、石、川、縣、ハ、出張、申、付、候、事	内務省
三 年	九月十三日	土木、工、費、人、曾、計、主、務、並、務、申、付、候、事	大政官
十 六 年	三月三日	福島、宮、城、兩、縣、ハ、出張、申、付、候、事	内務省
三 年	七月二日	御、用、有、之、野、蒜、ハ、出張、申、付、候、事	
十 七 年	二月廿五日	福島、縣、出張、申、付、候、事	
		任、石、手、縣、令	大政官
履 歴 用 紙			
		岩 手 縣	
三 年	七月廿三日	月、俸、二百、五十、圓、下、賜、候、事	
十 八 年	四月七日	自、今、月、俸、三百、圓、下、賜、候、事	
三 年	四月十四日	欽、勲、三、等、賜、旭、日、中、綬、章	賞勲局
		陸、中、國、東、樂、井、郡、薄、衣、村、失、火、ノ、節、罹、災、者、 ハ、金、三、拾、圓、施、與、候、故、奇、特、ニ、付、其、賞、ト、シ、 テ、木、杯、一、箇、下、賜、候、事	
同 十 九 年	七月十九日	任、石、手、縣、知、事	内閣
三 年	十月廿八日	欽、勅、任、官、二、等、賜、下、級、俸	
十 年	七月十日	欽、從、四、位	
三 年	七月十日	陸、中、國、西、磐、井、郡、ノ、二、戸、郡、ニ、至、ル、國、道、改、 修、ノ、節、人、夫、十、八、百、拾、八、人、餘、奇、附、候、故、奇、 特、ニ、付、為、其、ノ、賞、木、杯、壹、組、下、賜、候、事	賞勲局
三 年	七月十日	明治、廿、二、年、八、月、三、日、勅、令、第、百、三、號、ノ、旨、依、 リ、大、日、本、帝、國、憲、法、發、布、記、人、志、章、ヲ、授、ケ、	

